

風の盆に八尾調査、収穫多々 往く夏 踊り、調査し、議論重ねる

text photo _shiozawa

年に一度、9月初めの3日間に行われる「おわら」は八尾を語るには欠かせないお祭り。その最終日の9月3日に合わせて、デザイン研のメンバーも八尾入りをした。今回は、中島助手、D3岡村、D1永瀬、M2江口、後藤、三澤、楊、M1伊藤、塩澤、筒井、平林、ポンサンの八尾メンバーに加え、研究室の他のメンバーも一度はおわらを経験しようと大勢が訪れた。

八尾に関わるからには、この町が誇りにする伝統行事を、非日常の様相に変わりゆく姿をしかと目に焼き付け、その雰囲気まるごと体に染みこませてから、一緒になって考えていきたいのです。



2度目のおわら

楊 恵亘 M2

今年は私にとって第二回目のおわら見学。この二回の経験で、おわらは八尾にとって不可欠の伝統活動だと感じています。三味線と胡弓の音楽と共に歌が流れ、それにあわせて静かな踊りが続きます。視覚と聴覚に印象深く残る伝統的な行事です。

普段は静かで落ち着いたこの町が、この三日間は観光客で賑わい活気づきますが、観光客に見せるためだけでなく、地元の人自身が心から楽しみ、皆、本当におわらが好きなのだということが伝わってきます。

上新町(今年の調査対象の町)ではこの期間、店舗のショーウィンドーにもおわらに関する商品が飾られ華やかに変身します。こういう光景は普段の様子からは想像しにくく、町全体を支えるのにこのような伝統行事に頼りがちな八尾は、これからどういうふうの生きのびていくのか、私たちも真剣に考えてきました。これから八尾のような町はどんどん出てくると思います。まちづくりの領域でこの問題について考えなければなりません。

提案現場の確認。ここで、こんなことができそうじゃないかと、思案を重ねる

公民館は1Fの階高が低くつくられている。まさに「おわら」の観賞に適したつくり。

越中八尾郵便局でヒアリング。郵便局も、まちとともに歩んできた。



浴衣も持参で夜はお祭りを一緒に楽しむ。

住民も混ざって輪になって踊る「輪踊り」にまざる。なんと富山出身の女優さんも…!

2006年度・第3回現地調査

三澤茂樹 M2

今年で2年目となる西町では、M2を中心にいよいよ観光MAP作りに向けて本格的な打ち合わせがスタート、八尾プロジェクトの真価が試される正念場を迎えている。一方今年からかかわっている上新町では、空き地活用のための現場調査を始め、おわらに欠かせない「えんなか」と呼ばれる水路調査、建物の実測間取り調査を3件、郵便局や祐教寺、上新町自治会長、行政センターなど6件のヒアリング調査など滞在中の3日間はあっという間に過ぎた。そして調査後、、、疲れをものともせず富山へくり出し、団欒とはかけ離れたエネルギーな会話飛び交う居酒屋。ドクターO&N氏から次々に飛び出す宇宙的尺度の言語群。脱帽した。結論。都市デザインには、「情熱」「根性」「体力」は欠かせないのだな。まだまだ修行が足りぬ。でも体育会顔負けの研究室を支えているのは、1人1人の都市への「愛情」に違いない、と思う。

OB陣の華々しき受賞ラッシュ

鳥海・黒瀬両OBの海外都市研究の成果に対し

研

研究室OBの活躍のニュースが今年も飛び込んできた。後に続く現役生の奮起も期待される。

第23回渋沢・クローデル賞
ルイ・ヴィトン ジャパン特別賞
鳥海 基樹 (首都大学東京准教授)

『オーダー・メイドの街づくり -パリの保全的刷新型「界限」プラン』

「景観法施行で新たな段階を迎えた日本の都市計画だが、パリでは、一歩先を行った「市民の生活を守る」街づくりが取り組まれている。パリでの経験を活かして日本の都市計画の進化に貢献すること、それこそが私の責務だ」(9月14日・都内仏料理店にて・本人)

日本建築学会優秀修士論文賞
黒瀬武史 (日建設計・今春3月修士課程修了)

『米国におけるブラウンフィールド再生政策とその実践に関する研究 -ニューイングランド地方の都市を事例として-』

京浜臨海プロジェクトではもはや「必読文献」となっている、という庄巻の修士論文。工学系研究科長賞をも受賞(本紙24号参照)している黒瀬OB(今春3月修了)、プロジェクトと個人研究をリンクさせながら両立させたその手腕には、学ぶところ大きい。

インターン体験記

実践勝負、社会の風濤を経験して

text_shiozawa

この夏、デザイン研・新領域北沢研のM1・5名はインターンに参加し、研究室外でも様々な貴重な体験をしている様子。まずはインターンを修了した3名にその感想を聞いてみました。

M1 筒井 直央

1週間、三菱商事の開発建設本部で実務体験をしてきました。総合元請、マンション・商業開発や都市開発マネジメントに始まり、リートやエネルギーソリューション…商社のネットワークを存分に生かした業務は多岐に渡っているわけですが、特に金融と都市との境界面は驚くべきスピードとスケールで動いていることに唖然。街はビジネスで動いていて、そこに都市の思想や理想のようなものが入る隙間はない、と一喝くらった気分です。だからこそ学生のうちこそそういったものを真剣に考えるべきだと確認できたところにひとつ、今回の成果を感じています。新たな価値観を携えて、いざ☆就活

M1 奥田 紘子

独立行政法人 都市再生機構 (UR) で、2週間インターンをさせていただきました。お邪魔させていただいたのは、新橋にある事務所で、今まさに街開きを控えている芝浦アイランドや豊洲の賃貸住宅などの現場視察、および実務の体験をしました。URは、都市工08をはじめとして都市・建築・土木などのバックグラウンドを持っている方が多く、「都市」と「都市に住む人々」の事を考えながら街をつくり出していく仕事を、皆さんが「本当に楽しい！」と言いながら働いていらしたのが印象的でした。

M1 吉田 拓

行き先は都市再生機構。都市再開発事業を業務の一つとする当社において、事業対象地、事業手法等の決定を経た後に、地権者の権利調整等を主な業務とする部署に配属となりました。私が行わせてもらった主な仕事は、現場視察、某プロジェクト紹介用のパンフレット作成、再開発事務所等における打合せへの参加、地権者を対象とするアンケート案の作成です。

私にとってはどれも新鮮な経験でしたが、この2週間を通じて特に感じたのは、都市開発とは私が知らない所で非常に大変な作業をしている人たちがいるのだ、ということ。特に地権者の権利調整については、社員の方々から多くの苦勞話を聞くことができました。

全体として、普段の勉強だけでは経験することのできない多くの事を学ばせてもらいました。所属チームの方々にも恵まれ、短い間でしたが、非常に内容の濃い2週間となりました。



▲芝浦アイランド・現場見学 (筒井)

次号では、M1横田 (横浜市) ・M1平林 (日建設計) の体験記を掲載予定です。

19年度・大学院試験終了

text_lshii

8月28日～9月1日にわたって実施された、平成19年度の大学院入学試験は、修士・博士両課程ともに、14日に発表が行われた。速報によれば、内部進学者 (卒論執筆中の学部4年生、博士課程進学者) は全員無事試験を通過した模様。これに加え、例年通り外部からの進学者の中にも本研究室志望者が相当数いるとみられ、来年度以降、研究室はますます賑わいを見せそうだ。

4年生の談話

「夏学期を終えてから本格的に腰を上げ、夏休み中は勉強を自分のペースで進めた。専門試験も設計も例年通りの傾向で比較的やりやすかったのでは。卒業研究はまだ入り口の段階だが、今後は心置きなく力を注ぐことができる。なるべく余裕を持って完成させたい」

日曜日は相撲三昧

健在！相撲部一日ツアー

text, photo_bannai

創

立2年目都市デザイン研・相撲部、恒例の大相撲九月場所観戦へと繰り出しました。中日 (17 (日))、本場所だけでは飽き足らぬ、とばかりに、早朝7時半両国駅に集合、朝稽古見学へ。場所中ゆえ、すでに稽古を終えている部屋もありましたが、角界一の伝統を持つ出羽海部屋からは、まだ身体と身体のぶつかり合う音が響いていました。座敷の出来山親方 (元小結出羽花) の横で、間近に力士の息遣いを感じながら小一時間、じっくり見学することができました。

午前中は、取組に向かう力士達が行き交う、本場所中ならではのぴりとした雰囲気を感じつつ、両国のまちをぶらり歩き。震災記念堂、安田庭園などを見学。昼ごはんの後、いよいよ国技館入りです。

のぼり調子の相撲人気を反映してか、マス席はほぼ満席に近い客入り、我々は分相応に「イス席C」。それでも、国技館名物の焼き鳥をつまみながらビールを飲んで、ひいき力士の声援に声を震らすのは、いいものです。

弓取式終われば、檜太鼓の音を背に、両国駅にほど近いちゃんこ屋に入り、ミーティング。まさに、相撲づくしの一日でありました。(参加：D田中、岡村、M2大谷、金 (夫人同伴)、坂内、M1筒井、平林)

左/国技館 右/ちゃんこ屋



タイ・研究室旅行について

text_lshii

メール等でご存知の通りかと思いますが、10月下旬に実施されるタイへの研究室旅行の内容です。

参加者は25名程度。コアとなるスケジュールは10月23日および24日で、暫定のスケジュールは以下の通り。バンコクでの現地集合・現地解散ということで、行き帰りの飛行機は各自取得ということになっておりますのでご注意ください。

スケジュール (暫定)

22日夜：研究室08・ニラモンさんの結婚披露宴

23日：<アムパワー散策>

木造の伝統住居訪問、舟による水郷の周遊など

24日：<バンコク市内散策>

スカイトレイン乗車・伝統的市街地の散策
地元学生との交換プレゼン・交流会

※質問等、詳細は旅行委員のM1伊藤・ポンサンまで。

編集後記

text_lshii

一応、いま大学は夏休み期間なんですね。1階・2階の講義室や会議室が閉鎖されている事実には、皆さんお気づきでしょうか。そのせいかどうか、本号の記事を集めるのはなかなか苦勞しました。自分の机の上に重なった「片付けるべき仕事」の量を見ても、研究室の活動が停滞しているようにはとても思えませんが、確かにニュース性のある出来事は少なかったかもしれません。

さて、夏休み、皆さんいかがお過ごしでしょうか？ 33号 (8/1) 号でアンケートをとった時は、「プロジェクトに賭ける夏」の構図が浮かび上がっていましたが、旅行のシーズンを外れる9月は、国内・海外旅行等々、合間合間で結構休みをうまく取っているメンバーも多いようです。筆者も休暇の短さを逆手にとって、今まであまり行く事がなかった東京近郊の町を日帰りして回っております。

というわけで、マガジンをやや日干し状態になっている状況をご理解いただいた上で、この夏「かけがえのない体験」をされた方いらっしゃいましたら、マガジン編集部までご一報ください。取材に行きます。よろしくお願いたします。